

ま え が き

最近のボイラー及び圧力容器は、技術の進展や用途の多様化、さらに環境対策の要請などに対応するため、新しい材料や工作方法が採用され、ますます高性能化、複雑化が進んでいます。

これらの変化が進む中で、ボイラー等の安全性を確保するためには設計、製造、取扱い等について、より高度な知識や技術等が必要です。万一、これらに不都合があると、ボイラー等が保有する莫大なエネルギーにより、当該設備のみならず、周辺住民にまで被害を及ぼす大きな災害となる恐れがあります。ボイラー及び圧力容器は、長い歴史の中で関係者のたゆみない努力により、事故や災害は減少してきていますが、いったん事故が発生した場合には甚大な被害を及ぼすことから、ボイラー等の事故を防止する取り組みは大切です。

このような状況において、一般社団法人 日本ボイラ協会では、日ごろからボイラー及び圧力容器に関する法令、使用材料、構造、工作方法等について幅広く調査検討しているところであり、また、この分野における研究成果の発表や討議の場として、厚生労働省後援の下にボイラー及び圧力容器の製造許可工場の工作責任者の方々を主な参加者とした全国工作責任者大会を毎年開催しております。

当協会では、本大会における法令や工作方法等に係る質疑応答の記録をとりまとめ、平成12年(2000年)に「全国工作責任者大会質疑応答集総集編」を発刊し、平成22年(2010年)に改訂、平成27年(2015年)に増補を行いました。今般、本年の大会が70回の節目に当たることから、その後の平成27年度(2015年)から令和元年度(2019年)までの質疑応答を追加し、増補改訂第2版として発刊することとなりました。

本書がボイラー及び圧力容器の設計、製造、検査関係に携わる方々はもちろん、整備・据付関係の方々、その他ボイラー・圧力容器に関係のある方々に広く愛読され、ボイラー及び圧力容器に関する製造技術の向上を通じ、関係災害の防止に寄与することを切望いたします。

2020年10月

一般社団法人 日本ボイラ協会

会 長 刑 部 真 弘